

J. S. バッハの2声のインヴェンション——MIDI 楽譜と分析 (1)

岸 啓子

(音楽研究室)

ヨハン・セバスティアン・バッハ (Johann Sebastian Bach 1685～1750) は、1720年1月22日から<フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集>の作曲を始めた。長男フリーデマンと弟子たちの教育を目的とするこの曲集には、装飾記号の演奏法や<平均律クラヴィーア曲集>の一部とともに<2声のインヴェンション>と<3声のファンタジア>の初稿が記入された。曲集で<インヴェンション>は<プレアンブラ>と呼ばれ、半音階的に上昇する現在の最終稿とは異なり、5度の近親関係で配列されていた。この原曲をもとに1723年<3声のシンフォニア>と<2声のインヴェンション>最終稿が完成された。

インヴェンションの表題には、

クラヴィーアの愛好家、とりわけ学習希望者が、まず2声部をきれいに演奏し、さらに上達したなら、オブリガートの3声部を正確かつ上手に処理し、同時に、すぐれた楽想 (inventiones) を身につけ、それを巧みに展開すること、カンタービレ奏法を習得し、併せて作曲の予備知識を得るための方法を示す正しい指導書 (一部略)

とある。

バッハの記した<インヴェンション>の目的は、①2声および3声の正確で美しい演奏 ②カンタービレ奏法 ③すぐれた着想・楽想を得て、それを巧みに展開すること ④作曲の予備知識の獲得、である。現代のピアノ教育において<インヴェンション>は、退屈な練習曲といった位置づけを与えられがちであり、せいぜいのところ①と②に配慮されるにとどまっている。古典派やロマン派の時代に演奏と作曲が分離して異なる専門領域となり、対位法が作曲の中心的技法から退いて以来、たしかにこの曲集は作曲の教材ではなくなった。しかし、古典派以降の和声法による作曲法とは一線を画する華麗対位法の最後の大家によって作曲された<インヴェンション>は、バッハのポリフォニー作曲家としての技量を余すところなく示しており、それ故現在では対位法音楽演奏の入門書としての地位を新たに賦与されることになった。当時の作曲法や音楽様式への理解なしにバッハを演奏することは困難であり、作曲法と限定せず、そこへ至る音楽理論や音楽様式、音楽のしくみへの理解と広くとらえるなら、バッハが掲げた③や④の目的も今なお有効性を失っていないといえる。

表題の示すとおり、<インヴェンション>は音楽の演奏と理論の理解を同時に実践して効果をあげるものであり、指の訓練やテクニックの上達だけを目指した練習曲ではない。表現活動である演奏は、演奏しようとする作品の解釈と不可分の関係にあり、解釈は、作品に用いられている作曲技法や書法の理解に基礎を置くものである。本稿でとりあげる<インヴェンション>の分析

は、したがって、演奏と理解、実践と理論という循環の中に定位されるものであり、演奏や鑑賞と補完的な関係にある。純粋に演奏法の領域であると考えられがちな②カンタービレ奏法も、旋律対旋律であるポリフォニーにおいては、旋律対伴奏であるホモフォニーにおけるカンタービレとは表現法が異なってくる。さらに、①の2・3声の正確で美しい演奏とは、音符の高さと長さの正しさや指の運動性という物理的・技術的レベルの問題ではなく、フレージングやモチーフ、段落区分や表現法的確さに支えられた音楽美も含む概念である。

《2声のインヴェンション》は題が示すように2声で声部数が少なく、音符対音符、旋律対旋律である対位法の基本的な姿であり、それゆえ音楽のつくりが単純でわかりやすい利点を持つ。作品分析では、音楽を言葉で説明する煩雑さを最小限に抑えるために、楽譜の提示や図表で結果を現すように心がけた。

従来の楽曲分析では楽譜を「読む」作業に終始する傾向にあり、分析と聴取（鑑賞）は音楽に対する異なるアプローチと捉えられがちであった。本稿では、楽譜・楽曲分析・音楽（響き）の三位一体的統一を図るため、パソコン画面で音楽として出力できる楽譜を作成し、そこに分析を記入した。それによってパソコンの楽譜画面を確認しながら、拍や小節単位での反復演奏（再現）が容易になり、理論的理解と感覚的聴取の統一を高めることが期待できる。なお本稿では印刷という形態の制約上、楽譜を耳で聞くことはできないが、実際はパソコンで楽譜画面と演奏をあわせて使用することを考えている。本稿では割愛したが、演奏用には分析の記入されていないもの・声部別パート譜を用いる。

第1番 ハ長調

主題 A は半小節、対位 B も半小節である。A、B は曲中で徹底的に展開、変奏され、反行形（inversion 分析譜では I と記入）も頻出する。またそれらが上下声部で多様に組み合わせられる。A は a+b+j, B は c のモチーフによる。

A a+b+j a 音階 b3度反復
j 変化しつつ次に接合する関節様部分（譜例1）

IA の反行形 変形成 IA1あり。

B 変形成 B1, B2, B3 反行形 IB あり。

形式は3部分からなり、カデンツで区分される。

| | | |
|---|---------|-------------------------|
| Ⅰ | 1-6小節 | ハ長調—ト長調 |
| Ⅱ | 7-14小節 | ト長調—イ短調 第1部の上下（右手と左手）交替 |
| Ⅲ | 15-22小節 | イ短調—ハ長調 B省略形（長音符）で進行 |

各部分のモチーフの組み合わせは以下の通りである。

| | | | | | | |
|----------|----|----|------|------|------|---------|
| 小節番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| Ⅰ 上声（右手） | AB | AB | IAIA | IAIA | B2IA | IA1カデンツ |
| 下声（左手） | A | A | B1B1 | B1 | AB1 | B2 |

| | | | | | | | | |
|----------|----|----|------|------|------|------|------|---------|
| 小節番号 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| Ⅱ 上声（右手） | A | A | IA | IA | B1B1 | B1 | AA1 | K（カデンツ） |
| 下声（左手） | AB | AB | IAB2 | IAB2 | IAIA | IAIA | B2IA | IA1 |

新たに入った第9、10小節以外はⅠの上下声部が交替したもの。

譜例 1

INVENTIO I

| 小節番号 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|-----------|----|----|----|----|------|-----|----|----|
| Ⅲ 上声 (右手) | IA | A | IA | A | AA | AB3 | IA | K |
| 下声 (左手) | IA | A | IA | A | IBIB | IBA | B1 | K |

第2番 ハ短調

主題と対位（対旋律）のモチーフの変形・発展で全曲が組み立てられている第1番とは異なり、長い旋律を厳格に模倣するカノンである。Aがテーマ主要部分であるが、カノン旋律はA-B-C-D-Eの5部分からなり、A-Dまで第2声部で模倣される。

全体は3部分からなるが、Ⅲはコーダ的性格が強い。

Ⅰ 1-10小節 ハ短調—変ホ長調

Ⅱ 11-22小節 ト短調—ハ短調 I部の上下声部を入れ替え

Ⅲ 23-27小節 ハ短調 第1（対旋律追加）から第4小節の反復

各部分の模倣は次のようになる。旋律の区分はそれぞれ2小節。

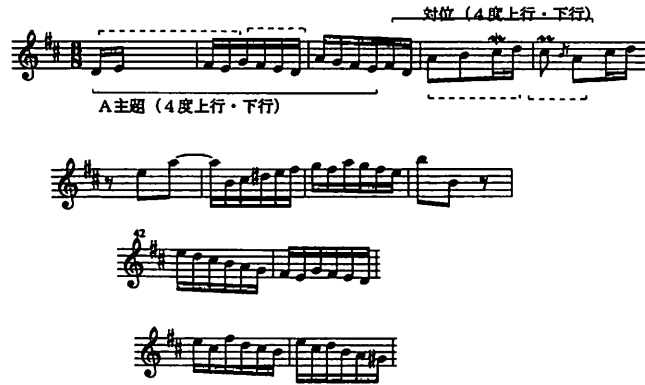
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|----|----|
| 上声 | Ⅰ | A | B | C | D | E | Ⅱ | gs | A | B | C | D | K | Ⅲ | A | BK |
| 下声 | Ⅰ | A | B | C | D | Ⅱ | A | B | C | D | E | K | Ⅲ | B | AK | |

第3番 二長調

前の2曲では、明確な形態を持つモチーフやフレーズのパターンを、移動し、反転し、模倣して組み合わせる方法で作曲されたのに対して、この第3番のモチーフやフレーズは、常に明確な輪郭を持つ形態として存在するものではない。一定であるのは核となる中心部であり、そこから

譜例 2

INVENTIO III



モチーフは自由に生成発展し、連なりながら変容する。従って分析も、パターンを識別し、全体を均質なピースに解体・整理するようにすっきりとはいかず、解釈に委ねられる流動的で曖昧な要素が増す。大きなフレーズでは第1～11小節の、第43～53小節での反復があるが、これとてIは途中から属調に転調し、IVは主調を保持しているため全く同一ではない。しかしそこには明確な関係付けへの意識があり、ソナタ形式を先取りするような、調による有機的統合への萌芽が感じ取れる。

主題は2小節である。(譜例2)弱起で始まるが、弱起のフレージングでない部分もある。全体は4つの部分とコーダからなる。

- I 1—11小節 ニ長調—イ長調 途中で属調に転調
- II 12—23小節 イ長調—ロ短調
- III 24—37小節 ロ短調—イ長調
- IV 38—53小節 ニ長調 Iの主調での再現
- V 54—59小節 ニ長調 コーダ

テーマとモチーフは主題Aと対旋律Bが主要なものであるが、固定対位はない。Aは様々に変化する。

A テーマ a+b+b1 aは3度上行, bは中心モチーフ, b1はb前半4度下行

B 対旋律 4度上行(a1)と4度下行(b1)

A, Bともに4度上行・下行の音程を核としている。A:レーソーレ, B:ラーレーラ

Aの変形は, bの連続: A1, A3, A4 aの拡大または縮小: A2による。Oは保続音。

- I 上声 A B A1 A1 カデンツ
下声 A O A2
- II 上声 A2 A2 A3 カデンツ
下声 A2 A2 C A4
- III 上声 A2 O A2 O A3 A2 カデンツ
下声 A2 O A2 A1 A2

- Ⅳ 上声 B1 A2 A B O O A2 カデンツ
 下声 A2 A2 A A1 A1 A2
- Ⅴ 上声 A2 カデンツ
 下声 A2 A4

第4番 二短調

主題中のモチーフを連結し、敷衍する作曲の方法は第1番に近いが、二短調という調性の持つ激しさ、主題中の減7度跳躍、16分音符の連続が相乗的に劇的な気分を強めている。更に主和音から属和音への主題の和声進行も効果的である。3部分からなる。(譜例3)

譜例3

INVENTIO IV



- Ⅰ 1—17小節 二短調—へ長調
 Ⅱ 18小節—37小節 へ長調—ト短調—イ短調
 Ⅲ 38小節—52小節 イ短調—ト短調—二短調

主題 A は上行 (a)・下行音階 (ia : a の inversion 反行形) と中央の減7度跳躍 (b), 対旋律 B (c) は分散和音で、主要声部の旋律の和声による。A は和声的で2小節周期でT→D (トニカからドミナント) 進行する。

- A a+b+ia a: 6度上行音階 b: 減7度跳躍 ia: 6度下行音階 T→D
 B c+c c: 6度上行する分散和音 T→D
 モチーフと構造 O は保続音 IA は A の反行形

- Ⅰ 上声 A B A A A a a iaia カデンツ
 下声 A B B1 B1 A A A
- Ⅱ 上声 O O IA IA A A1 A2 A2 A2 カデンツ
 下声 A A a a B2 O O O B B
- Ⅲ 上声 B A B A B IA1 カデンツ
 下声 A B A B A A3

第5番 変ホ長調

主題は固定対位を伴い、二重対位法で作られている。4小節の主題 T は aabc 各1小節のモチーフの連続からなる。モチーフ b は旋律的には a+a の反行形、リズム的には c と同一で、主題各部は旋律・リズムともども強い関連で結ばれている。ぎざぎざと進行する対旋律は、主題冒頭

のリズムに由来し、1, 2, 4小節は主題と反進行、第3小節のみ6・3度で並進行する。主題の形態は3小節で旋律のシンメトリー（上下行）が完結し、第4小節で発展的に次のフレーズに繋がってゆく。（譜例4）曲全体は2部分とコーダからなる。

- Ⅰ 1-11小節 変ホ長調
- Ⅱ 12-26小節 変イ長調—ハ短調—ヘ短調—変ロ短調—変ホ長調
- Ⅲ 27-32小節 変ホ長調 コーダ

構造とモチーフは

T (主題 Thema) a+a+b+c aac は Es-C-Es の対象的山形音型

GS (固定対位 Gegensatz) 16分音符

T と GS は調を変えながら上下交替する。

- Ⅰ 上声 T GS t t t
下声 GS T gs gs gs
- Ⅱ 上声 GS T gs gs gs t t gs gs
下声 T GS t t t gs gs t t
- Ⅲ 上声 T カデンツ
下声 GS

譜例 4

INVENTIO V

INVENTIO I

The musical score is organized into two systems, each with piano and violin parts. The piano parts are written in grand staff notation (treble and bass clefs), while the violin parts are in single staff notation (treble clef). The score includes various performance markings such as *mf*, *ff*, *rit.*, and *rit. to ♩* . Rehearsal marks are indicated by Roman numerals I, II, and III. Section letters (A, B1, B2, B3) and their combinations (IA, IB1, IB2, IB3) are placed above the staves to denote specific passages. The word "カザンツ" (Cadenza) is written in Japanese characters above the piano parts in several measures. The score concludes with a double bar line and a common time signature (C) in the final measure of the piano part.

INVENTIO II

The image displays a MIDI score for J.S. Bach's Invention No. 2, arranged in two columns. The score is written for two voices (treble and bass clefs) and includes various performance annotations and structural markers.

Annotations and Markings:

- Measure 1:** "テーマA" (Theme A) above the staff.
- Measure 2:** "I" below the staff.
- Measure 3:** "B" above the staff.
- Measure 4:** "右手中指と尺C" (Right hand middle finger and C) below the staff.
- Measure 5:** "テーマ(原調)A" (Theme in original key A) above the staff.
- Measure 6:** "右手中指" (Right hand middle finger) below the staff.
- Measure 7:** "B" above the staff.
- Measure 8:** "D" above the staff.
- Measure 9:** "右手中指" (Right hand middle finger) below the staff.
- Measure 10:** "C" below the staff.
- Measure 11:** "E" above the staff.
- Measure 12:** "右手中指" (Right hand middle finger) below the staff.
- Measure 13:** "Aテーマ" (Theme A) above the staff.
- Measure 14:** "①の右手" (Right hand of ①) above the staff.
- Measure 15:** "III 小指の尺B" (III Little finger and B) below the staff.
- Measure 16:** "②の右手" (Right hand of ②) below the staff.
- Measure 17:** "B" above the staff.
- Measure 18:** "E" above the staff.
- Measure 19:** "小指(原調)と尺C" (Little finger in original key and C) below the staff.
- Measure 20:** "ローフ" (Lof) below the staff.
- Measure 21:** "テーマ" (Theme) below the staff.
- Measure 22:** "B" below the staff.
- Measure 23:** "右手中指" (Right hand middle finger) below the staff.
- Measure 24:** "テーマA" (Theme A) above the staff.
- Measure 25:** "右手中指" (Right hand middle finger) below the staff.
- Measure 26:** "B" below the staff.

INVENTIO III

The image displays a musical score for 'INVENTIO III' by Anna Bach. The score is arranged in two columns and six rows. Each row contains a pair of staves (treble and bass clef). The notation includes various musical symbols such as notes, rests, and dynamic markings. Key features include:

- Section I:** Located in the first row, starting at measure 1 and ending at measure 14.
- Section II:** Located in the third row, starting at measure 15 and ending at measure 21.
- Section III:** Located in the fifth row, starting at measure 22 and ending at measure 26.
- Section IV:** Located in the second row of the right column, starting at measure 27 and ending at measure 34. It includes the Japanese text 'コダツ' (Kodatsu).
- Section V:** Located in the fourth row of the right column, starting at measure 35 and ending at measure 41. It includes the Japanese text 'コダツ' (Kodatsu).

Throughout the score, there are numerous annotations including 'A', 'A1', 'A2', 'A3', 'A4', 'B1', 'B2', 'C', 'D', 'E', 'F', 'G', 'H', 'I', 'J', 'K', 'L', 'M', 'N', 'O', 'P', 'Q', 'R', 'S', 'T', 'U', 'V', 'W', 'X', 'Y', 'Z', 'a', 'b', 'c', 'd', 'e', 'f', 'g', 'h', 'i', 'j', 'k', 'l', 'm', 'n', 'o', 'p', 'q', 'r', 's', 't', 'u', 'v', 'w', 'x', 'y', 'z', 'aa', 'bb', 'cc', 'dd', 'ee', 'ff', 'gg', 'hh', 'ii', 'jj', 'kk', 'll', 'mm', 'nn', 'oo', 'pp', 'qq', 'rr', 'ss', 'tt', 'uu', 'vv', 'ww', 'xx', 'yy', 'zz', 'aaa', 'bbb', 'ccc', 'ddd', 'eee', 'fff', 'ggg', 'hhh', 'iii', 'jjj', 'kkk', 'lll', 'mmm', 'nnn', 'ooo', 'ppp', 'qqq', 'rrr', 'sss', 'ttt', 'uuu', 'vvv', 'www', 'xxx', 'yyy', 'zzz', '1', '2', '3', '4', '5', '6', '7', '8', '9', '10', '11', '12', '13', '14', '15', '16', '17', '18', '19', '20', '21', '22', '23', '24', '25', '26', '27', '28', '29', '30', '31', '32', '33', '34', '35', '36', '37', '38', '39', '40', '41', '42', '43', '44', '45', '46', '47', '48', '49', '50', '51', '52', '53', '54', '55', '56', '57', '58', '59', '60', '61', '62', '63', '64', '65', '66', '67', '68', '69', '70', '71', '72', '73', '74', '75', '76', '77', '78', '79', '80', '81', '82', '83', '84', '85', '86', '87', '88', '89', '90', '91', '92', '93', '94', '95', '96', '97', '98', '99', '100'. The score is written in a standard musical notation style with a key signature of one flat and a time signature of 3/4.

INVENTIO IV

The image displays a musical score for J.S. Bach's Invention No. 4, arranged in two systems. Each system consists of two staves (treble and bass clef). The score is annotated with various letters and numbers to indicate structural elements and specific musical features.

System 1 (Measures 1-16):

- Measures 1-4: Labeled with 'A' above and 'I' below.
- Measures 5-8: Labeled with 'B' above and 'I' below.
- Measures 9-12: Labeled with 'C' above and 'I' below.
- Measures 13-16: Labeled with 'B' above and 'I' below.

System 2 (Measures 17-32):

- Measures 17-20: Labeled with 'A2' above and 'III' below.
- Measures 21-24: Labeled with 'B' above and 'III' below.
- Measures 25-28: Labeled with 'A' above and 'III' below.
- Measures 29-32: Labeled with 'B' above and 'III' below.

Additional annotations include 'カデンツ' (Cadenza) written in the bass staff of measures 10-11, 21-22, and 29-30. The score uses various bracketings and underlines to group notes and phrases.

INVENTIO V

The image displays a musical score for 'INVENTIO V' by Anna Bach. The score is presented in two columns, each containing eight systems of music. Each system consists of a grand staff with a treble clef on the upper staff and a bass clef on the lower staff. The notation includes various musical symbols such as slurs, ties, and dynamic markings. Roman numerals I, II, and III are placed in the bass clef of the first, fifth, and sixth systems respectively. The piece concludes with a fermata in the final measure of the eighth system on the right.

(2002年5月16日受理)